

[概要]

本稿では、地域祭礼が象徴する境界の変容を、農家の就業構造の変化に着目し検討することで、その変容に及ぼした作用を明らかにすることを目的とした。研究対象とした荒木のねつおくり祭りは、農薬の普及や農家の兼業化により担い手が減少していき、混住化が進行する中非農家が新たに担い手となった。祭礼の順路に象徴された農家の精神的ムラ境は、高度経済成長期以降変化していった。これは、兼業化による農業労働力の減少や、主な生産活動の場が農地ではなくなったことにより、農家の社会空間が希薄化したことに起因すると考えた。また、農家への都市的生活様式の浸透により彼らの境界認知は消滅しつつあり、担い手の移行はムラのウチとソトとの境界を再確認する境の場所を祭礼から消失させた。これにより精神的ムラ境が再生産されなくなり、精神的ムラ境を象徴した順路は次第に短縮したと考えた。

キーワード：祭礼, 地域社会, 就業構造, 精神的ムラ境, 境の場

